

# 県のたより

KANAGAWA

2010  
7月



## 四季折々のかながわ(投稿写真)

総帆展帆(そうはんてんぱん)

(写真:横浜市・田中文夫さん)

優雅な姿から「太平洋の白鳥」と呼ばれた日本丸。今はみなとみらい21地区に保存・展示されています。すべての帆を広げる「総帆展帆」には、多くの人々が訪れます。

■交通:桜木町駅、みなとみらい駅徒歩5分

編集 発行 / 神奈川県 県民局 企画調整部 広報課 ☎045(210)1111(代) 045(210)8834  
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 ホームページ版 HP は  神奈川県 県のたより  検索

※記事  
2面 小瀬代の森を守る / 知事のごこと  
3面 県民功労者表彰 / 認知症の相談 / 地デジ移行まであと1年  
4面 家族でかながわの魅力を感じ / 栽培禁止の「けし」

# みんなを元気に! ボランティア団体活躍中



私たちの暮らしの中には、介護、子育てなど、個人や家族だけでは対処が難しい問題があります。こうした問題の解決を目指し、県内のさまざまな地域で、多くのボランティア団体などが積極的に活動しています。ここでは、県と協働・連携して活動している2つの団体の活動紹介と、ボランティア活動の活性化に向けた県の取り組みを紹介します。

アクセスデザインギード  
セーリングを体験

## 障害者から高齢者まで海をもっと身近に!!

ヨットに乗って風を感じたい! そう思ったことがある方は多いのではないのでしょうか。

“NPO法人セイラビリティイ江の島”では、障害者とその家族の方などに、アクセスデザインギード(安定性の高い小型のヨット)を使って、海の素晴らしさとヨットの楽しさを体感してもらう活動をしています。

「とにかく海は危険だというイメージがある中で、もつと海に親しんでもらいたい、家族みんなが海を好きになってもらいたい」との思いから活動を始めました」と、代表理事の松本富士也さん。

活動は主に4~10月に行っており、平成16年の団体設立から今まで、約5000人の障害者の方がアクセスデザインギードを楽しんでいます。

体が不自由なので普段の移動は困難ですが、海の上では風や波の力を利用して自由に進めるのでとても楽しかった



うちの子どもは介助が必要で、今まで親子でスポーツをしたことがなかったのですが、子どもと一緒に操縦ができてうれしかった

参加した方から寄せられた声の一部です。

## かながわ県民活動サポートセンター

ボランティア活動を応援!

県では、ボランティア活動がもっと活発になってほしいとの思いから、さまざまな支援を行っています。

### 活動について相談したい

→アドバイザー相談、NPO早わかりセミナーなど

### 活動に必要な知識や技術を学びたい

→かながわコミュニケーションτζ[10月開講講座(8月1日から募集)]

### NPOIについての情報が欲しい

→NPO情報サイト(KaNaPIOステーション)、情報誌(Junction)など

【問合せ】かながわ県民活動サポートセンター 基金事業課(横浜駅西口徒歩5分)

## ひきこもりの若者たちの社会参加と就労を目指します!

横須賀市の上町商盛会商店街を拠点に、ひきこもりの若者たちに社会参加の場を提供し、就労に結びつけることを目的に活動している“NPO法人アソナージュ・よこすか”。

理事長の滝田衛さんは「行政や学校には支援体制があるけれども、ひきこもりの子どもや若者たちすべてをカバーしきれないようなに思える。それなら自分たちもそんな間口の一つになろう」と考え、活動を始めました。

今では「挫折感に陥りがちな子どもや若者たちに、もう一度自信を持ってもらう場が必要」と、就労研修ができる店“はるかぜ書店”を立ち上げたり、家庭



はるかぜ書店前での販売研修

以外に安心してくつろげる場所を提供したり、もう一度勉強してみようと考えている方への学習支援を行ったりしています。活動は、商店街の方々などの協力により、さらには広がっています。

## 県やほかのNPOなどと協働・連携したい

→かながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金(7月1日から募集)

→つながりチャレンジ25(ネットワークづくり支援のための負担金交付と各種支援)

## 活動に必要な費用を何とかしたい

→かながわボランティア活動推進基金21ボランティア活動補助金(8月1日から募集)

## 会議や打ち合わせの場が欲しい

→ミーティングルーム、ボランティアサロン



☎045(312)1121 内線2831、2832 ☎045(312)4810 HP